

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)		旧石器八テナ館運営委員会				
事務局 (担当課)		文化財保護課 電話042-769-8371(直通)				
開催日時		平成26年11月25日(火) 14時00分～15時30分				
開催場所		旧石器八テナ館実習講習室				
出席者	委員	6人(別紙のとおり)				
	その他	0人				
	事務局	6人(小俣課長 鈴木担当課長、河本主査、松川主事 領家学芸員 長尾学習指導員)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 議題 (1) 運営委員会委員の委嘱について  (2) 平成25～26年度の事業実施状況等について  (3) 平成27年度以降の取り組みについて  2 その他				

## 審 議 経 過

主な内容は次のとおり。( は委員の発言、 は事務局の発言)

あいさつ

小俣課長あいさつ

### 1 議題

#### ( 1 ) 運営委員会委員の委嘱について

平成 26 年 3 月 15 日付け及び 4 月 1 日付けの委嘱替えについて事務局より報告を行い、委嘱状の交付及び委員の自己紹介を行った。なお、委員の互選により委員長を安蒜委員、副委員長を田所委員とした。

#### ( 2 ) 平成 25 ~ 26 年度の事業実施状況等について

#### ( 3 ) 平成 27 年度以降の取り組みについて

事務局より旧石器ハテナ館の施設概要と平成 25 ~ 26 年度上半期までの普及事業について説明し、入館者数は、昨年度の同月時点よりも増加したことを報告した。また、体験教室・講座・講演会等のイベントについては、ほぼ例年の実績で推移している状況を説明した。なお、実習・講習室の利用実績が減少しているが、相模川ふれあい科学館のリニューアルオープンなどで客足がとられている可能性を報告した。

引き続き平成 27 年度以降の主要な取り組み事項について説明を行い、広報の強化、定例体験の拡充、年間入館者の増加を図るためのイベントの継続、相乗効果を狙ったイベント開催の 4 項目について説明した。

小学校の場合、4 月 10 日頃には関連する社会科の授業が終わってしまう。体験教室等の内容を活かすには 3 月頃までに情報提供が必要。

学校の年度の当初計画に組み込むことを考えると 3 月には、情報提供する必要がある。また、歴史、環境など、できることのメニューを用意し周知することも大事。

小学校ではハテナ館まで行くのが時間の都合等により難しい。出張授業でやっていただく方が利用しやすい。

情報提供のやり方として、例えば学校グループウェア「e - ネット」を通じた情報提供にはどの程度の効果があるのか。

e - ネットを通じた情報提供については、夏休み前の 6 月などにまとめて周知してもらえると目に留まりやすい。

ハテナ館は市の施設の中では、いわばサービス部門にあたる。民間で言えば営

業を職員が積極的にやらなくてはならない。利用者の視点に立って様々な条件をおぜん立てすることも考えなくてはならない。

入館者のアンケートをみると40代の利用が一番多い。もっと若い世代の発想を活かすような取り組みをした方が良い。

学校利用などアンケート結果には見えない子供の利用もあるが、日常的な入館者の傾向としてはやはり年齢層が高い。若い世代へのアピールにつながる取り組みが課題であると認識している。

以前、中学生が学校から宿題を出されたと言って来館していることがあった。学校の課題等に取り込んでもらうことが必要ではないか。

気軽に立ち寄ってコーヒーやお茶が飲めるような場所があると人が集まる。そうした人を集める工夫も必要ではないか。

以前、家族が公園で弁当を広げている光景を見かけたが、家族連れが楽しめるような場所が重要。

のぼりや垂幕などを充実し、普段、関心がないような方にも学習館の存在や遺跡の価値を知ってもらう必要がある。

一度見たらもういいとなってしまうがち。新鮮味を失わないような努力が必要。全国の新しい成果を取り入れ、展示替えなどを通じて旧石器という時代をどのように理解するのか、日々情報を提供していく姿勢が重要ではないか。

例えば小学生には旧石器時代のイメージがないので、それをどのように分りやすく伝えていくのか試行錯誤が必要と考えている。また、来年度以降、当麻地区の区画整理事業に伴う遺跡の調査が始まる。近隣なので、その調査成果をリアルタイムに活用した取り組みも考えていきたい。

日本の岩宿遺跡のような位置づけにある韓国の石荘里遺跡では、記念行事に伴って3日続けて様々なイベントやパフォーマンスが行われていた。全く旧石器とは関係ないものであったが、いたるところで「石荘里」の価値をアピールする表示があり、その宣伝効果は大きいと感じた。遺跡の価値を伝える手段として、従来とは違ったこのような形があってもいいのではと考えさせられた。

今後は、入館者の動向など現象面だけをただ追いかけていくのではなく、田名向原遺跡の価値をどう高めていくのかということも考えてもらいたい。

## 2 その他

最寄りのバス停名と交差点名が、今年度から「田名向原遺跡」になったことを報告した。

## 平成 26 年度旧石器ハテナ館運営委員会出欠

(平成 26 年 1 1 月 2 5 日開催)

五十音順

氏 名	分野等	所 属 等	備考
あまり おさむ 甘利 修	学校教育関係者	弥栄小学校校長	出席
あんびる まさお 安蒜 政雄	学識経験者(考古学)	明治大学教授	出席
いちかわ のりこ 市川 憲子	ボランティアガイド代表	田名向原遺跡案内・普及実行委員会	出席
えなり 江成マサ子	地域住民代表	ハテナ館と地域をつなぐ会副会長	出席
くぼ すみこ 久保 純子	学識経験者(自然地理学)	早稲田大学教授	欠席
たどころ まさのり 田所 昌訓	地域住民代表	田名地区自治会連合会会長	欠席
なかがわ のぶ お 中川 伸雄	地域住民代表	平成 26 年度塩田自治会副会長	出席
みやはら さちお 宮原 幸雄	学校教育関係者	市教育委員会学校教育課指導主事	出席